

チャペル通信 108号

2017年 (平和シリーズ①) 二人の贖罪

**父よ。彼らをお赦してください。彼らは何をしているのか
自分でわからないのです。** ルカ23章34節

関東地方は少雨の梅雨が明け、真夏の暑さが続きます。九州を襲った豪雨で、今なお、避難生活を余儀なくされておられる方が多くいる事に心が痛みます。

今年も暑い夏、そして日本人として決して忘れてならない**8月6日・9日8月15日**を迎えるたびに、72年前の出来事を風化させてはならないとの気持ちが、湧きあがります。「安保法制」「共謀罪」とたて続けに、力づくの国会運営による「戦前回帰」をもくろむ安倍政権の動向が気になります。

海外でも「憎しみの連鎖」の結果、各地でテロが起こり、罪なき市民・子供のいのちが奪われています。どうしたら平和な世ができるのかじっくりと考えねばなりません。

混沌とした世界情勢のなか、憎しみに燃えた心を平和な心に変えた、「奇跡」をおこした二人の元軍人で、一人は日本人 一人はアメリカ兵の話を、昨年8月15日NHKスペシャルで放映されました。2人のクリスチャンとしての改心を克明に知らしてくれました。

日本人は真珠湾を攻撃した時の指揮官で、「トラ・トラ・トラ我奇襲に成功せり」との電報を打った淵田美津雄で、アメリカ兵は真珠湾攻撃に復讐心を燃やして志願兵となり、名古屋上空で300発の焼夷弾を落としたジェイコブ・ディセイザーでした。二人がなぜに憎しみをたちきれたのかを紹介します。紙面では伝えきれません。是非7月30日の録画視聴において下さい。

〒213-0023 川崎市高津区子母口776

編集 日本同盟基督教団 **子母口キリスト教会**

発行

e-mail shibokuchi@church.jp

牧師 小岩井 信 <http://shibokuchi.church.jp/>

電話 044-766-0181 FAX 044-766-2157



「二人の贖罪」について考える集い

7月31日(日) 13:30~15:00

子母口キリスト教会2階 無料です

NHKの放送録画48分視聴

希望者には随時
上映します。

COFFEE TIMEあります。 **連絡ください**



星野富弘の詩画 ② 新シリーズ季節の花



枝豆

教師時代部活指導中の事故で体の自由を失った星野さんが口に筆をくわえて描いた詩画をカラーでないので残念ですが、毎回掲載します。星野さんを世に知らしめた本「愛・深き淵より」(1882年絶版)は、当教会員であった方が社長であった立風書房から出版されました。

カラー版の星野さんの絵の入った読み物を無料で差し上げます。教会にご一報下さい。郵送します。

定期集会

どなたでもおいで下さい

(日) 礼拝と学び 教会学校 夕 拝	10:30~12:10 13:30~14:30 19:30~	(水) 聖書の学びと祈祷会	19:30~
		(金) 聖書の学びと祈祷会	10:00~

無知は無理解を生み、無理解は憎悪を生む。そして憎悪こそは、人類相克の悲劇を生む。無知から生まれる、憎しみの連鎖を断たねばならぬ。これこそ「ノーモア・パール・ハーバー」の道である。

ジェイコブ・ディセイザー

真珠湾攻撃

1941年12月7日の日曜日のハワイ真珠湾に300機の飛行機が襲来し、アメリカの戦艦4隻が撃沈されました。戦艦アリゾナは4発の爆弾で沈み、2300名の命が奪われました。宣戦布告のない卑怯な攻撃として反日感情が盛り上がり多くの青年が応召しました。



「今に見ている。ジャップめ。必ず復讐してやる。日

復讐心の名古屋空襲

本人を皆殺しにしてやる。」ジェイコブ・ディセイザーは1942年4月1200キロ先までの片道の燃料を積んだ16機編隊の航空機に乗り込みました。目標は名古屋。300発の焼夷弾を落とし、軍の命令に背いて、民間人にも銃を向けました。その後中国に不時着しましたが、そこは日本の占領地でした。

轟沈する戦艦

捕虜の牢獄で聖書の差入れ

隊員80人のうち8人が日本軍に捕えられ3人は銃殺され、5人が捕虜になり、しらみの湧いた布団とミミズの浮いたスープの食事、看守からは暴力を受ける日々が続きました。そんな中で同僚が死んだ時に、看守の一人青田武次が、町中を探し英語の聖書を探し出して差入れたのでした。ディセイザーはアメリカではクリスチャンとしての生活はなく聖書も読んだことはありませんでした。牢獄でむさぼるように聖書を読んだディセイザーに目に留まった言葉がありました。

隊員80人のうち8人が日本軍に捕えられ3人は銃殺され、5人が捕虜になり、しらみの湧いた布団とミミズの浮いたスープの食事、看守からは暴力を受ける日々が続きました。

ルカ23章34節 十字架に付けられたイエスさまが、発した十字架上の7つの言葉の一つ。「父（神）よ。彼らをお許してください。彼らは自分が何をしているのか、わからないのです。」



ディセイザー

英雄から戦犯に。敗戦にすさぶ心

戦局が悪化するなか、「一人でも多くのアメリカ兵を殺してやるのだ。皆殺しにする。」という目標にしがみついていた。1945年8月15日淵田の人生は大逆転。戦犯とみなす世間の態度の急変に人間不信にゆらい

淵田美津雄は真珠湾の功績により1943年参謀に昇格しました。

でいました。人との関わりをさげ農村に身を隠すように、生活をしていました。

劇的な2人の出会い

アメリカに帰国したジェイコブ・ディセイザーは神学校に学び牧師になり、日本伝道にたずさわる使命を見出しました。1947年名古屋に教会を作りました。

自分が爆撃した町に教会を建てる行動。自分が神の愛を知ることが出来たのはあの獄中の差し入れの聖書であった。なんとしても青田看守を探しだそうとしました。獄中で憎み続けていた心に変化したのです。看守に自分から挨拶をしたのです。それを七日続けると看守がサツマイモを差入れてくれるようになったそうです。その変化がクリスチャンとなる強いきっかけになったのでした。

渋谷の街頭で伝道している時に、淵田美津雄が通りかかりました。憎しみを断ち切った経過が書かれた文書をわたされ、初めて聖書を2か月で読み切りました。淵田の目に留まった聖句が**ルカ23章34節**でした。



語り合う淵田とディセイザー

「捲土重来・臥薪嘗胆などと言って祖国を愛するあまり、火のような敵愾心を抱いて戦ってきたが、偏狂にして、独善的なものがなかったらどうか。私は無知であった。それが悲劇を生んだのだった。」と振り返りました。

すぐにキリスト教徒になり、1952年に渡米して、悔い改めの行脚を開始しました。

巷では憎悪をむき出しにされましたが、教会では罪赦された者同志の平安に包まれ2年半にわたるアメリカ全土の旅は成功しました。

最も憎悪の渦巻くハワイにも赴きました。聴衆のさすような視線を避けることなく、穏やかに、自分の犯した過ちを告白しました。その淵田の姿勢に、愛する肉親を失った人からも「救し」が生まれたそうです。（NHKの番組から）